

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月23日

事業所名 スタンドハイyou

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6件 (100%)		子供達の目線に立ち、作業スペースを個々に確保している。	今後も整理整頓に努め、利用者の作業スペースを十分に確保する。
	2	職員の配置数は適切である	3件 (50%)	3件 (50%)	適切にできているが、利用数に増加に伴い、今後配置を増やすと更に良い	常勤及びパートのスタッフを増員することで適切な配置数を確保したい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6件 (100%)		全体的に段差を無くしてあるので、動きやすい。	トイレに手すりを設置したい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6件 (100%)		全体とは別に個々での振り返りの時間を設けるとさらに良くなる。	個やグループでの振り返りを意識して設定し、フィードバックできるようなシステムを作っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6件 (100%)		内容をスタッフで把握し、改善点があればすぐに実行している。	よりよい評価につながるよう、保護者からの相談等はすぐにシェアして多様な意見をもとに改善を図りたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5件 (80%)	1件 (20%)	事業所内にも掲示したり、保護者等へ配布をしていく。	公式LINE及びホームページに公表する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5件 (80%)	1件 (20%)	現在、第三者評価は受けていない。	今後第三者機関による評価も導入を検討したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6件 (100%)		スタッフのスキルアップを目的とした研修を設けたり、様々な研修を周知し、促している。	朝のミーティングの時間等にも意識的に研修の機会をとるようにしている。今後も継続していきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6件 (100%)		最初の面談や体験利用等でニーズや状況を把握し、アセスメントシートを作成し、計画を立てている。	医療とも連携したアセスメントができていますので今後も継続していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6件 (100%)		標準化されたアセスメントシートはあるが現在は活用していない。	必要に応じてアセスメントシートも活用したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6件 (100%)		スタッフ間で意見交換をし、一人一人に適したプログラムを作成している。	スタッフ間でアイデアを出し合い、よりよい支援につなげている。今後も継続していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6件 (100%)		週を通しての活動の流れやプログラムの進行状況をスタッフ間で共有、把握し、意見交換を踏まえて、当日のプログラムの再確認をしている。	かなりプログラムが用意できているが、さらに多様なプログラム開発ができるよう意識して取り組んでいきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6件 (100%)		適宜、リクリエーション的な活動やイベントを導入し、プログラムに変化をつけている。	今後も外部と連携したイベントを提供していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6件 (100%)		個別活動がメインとなっていて、必要に応じて集団活動も組み合わせている。	グループで活動する事になれた利用者も出てきた。必要に応じて集団活動を取り入れていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6件 (100%)		朝礼にて、当日の利用予定、プログラム内容を確認している。また関係機関や保護者からの情報を共有している。	打ち合わせの時間は十分にとれている。今後もこの体制を維持する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4件 (60%)	2件 (40%)	少人数での打ち合わせは支援終了後に行っているが、まともには朝行っている。	記録はその日のうちに残っているので、それをもとに翌朝のミーティングで気づきの共有を行っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6件 (100%)		支援計画の内容以外でも気づいた点や対応を記録している。また変化があれば、都度スタッフ間で共有する様になっている。	写真をつけた気づきの共有は保護者さんにも好評なので今後も継続する。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6件 (100%)		定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断している。	意図的計画的なモニタリングに今後も努める。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6件 (100%)		就労支援特化型という位置づけなので、総則の内容を加味しながら実際の仕事に役立つプログラムを編成、時間内に複数実施している。	今後もこのスタイルを継続する。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6件 (100%)		全体を把握できている児童発達支援管理責任者が参画している	今後はスタッフも参加できるようスタッフの知見を高めていく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6件 (100%)		送迎がないので基本的には行事予定の共有等は必要としないで行っていない。	支援に関する情報は共有できているので必要に応じて連絡調整を行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5件 (80%)	1件 (20%)	連絡体制は整えてあるが、看護師を配置していないため医療的ケアが必要な方の受け入れができない。	当方は医療的ケアが必要なお子さんの受け入れは考えていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5件 (80%)	1件 (20%)	支援会議で併用している放デイとの情報共有は行っている。	今後も情報共有に努めたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6件 (100%)		卒業にあたり進路等に関する相談もあり、これまでの支援内容の情報を提供している。	今後も工夫している点を維持する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6件 (100%)		専門機関、関係機関等と連携し、情報を共有することで助言等を受けている。	今後も工夫している点を維持する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5件 (80%)	1件 (20%)	島根県立大学との協働プロジェクトで交流の機会を提供している。	今後もこのプロジェクトを中心に交流の機会を増やしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5件 (80%)	1件 (20%)		立ち上げ1年ということもありなかなか参加ができなかった。今後は積極的に参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6件 (100%)		送迎時等に保護者と共通理解ができるよう、日頃の状況や気になった点などを伝え合っている。	今後も情報共有に努める。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	6件 (100%)		細かく保護者と連携をとることで、保護者のケアも含め支援を行っている。	どのスタッフも保護者ケアができるように研修を積む。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6件 (100%)		契約時に、細かく説明し理解を得ている。	今後も工夫点を維持する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6件 (100%)		保護者からの相談に素早く対応し、不安をいち早く減らせるよう助言等を行っている。	今後も工夫点を維持する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6件 (100%)		現在、父母の会等は開催してはいないが、保護者と一緒に楽しめるような活動を行うことで保護者同士で話せる機会も作っている。	今後も工夫点を維持する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6件 (100%)		苦情等があった場合にはいち早く対応し、第三者委員の委託等も考えている。	今後も工夫点を維持する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6件 (100%)		公式LINE等を使い、行事等ある際には事前に配信し、毎月の活動記録を月初めに渡し、保護者に内容を確認してもらっている。	今後も工夫点を維持する。
	35	個人情報に十分注意している	6件 (100%)		鍵つきキャビネットに個人情報情報は補充し、退庁時に施錠を確認している。	今後も工夫点を維持する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6件 (100%)		それぞれの意思疎通や情報伝達に必要な配慮を行っている。口頭説明だけでなく、メモ等を渡すなど工夫をしている。	今後も工夫点を維持する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6件 (100%)		現在、地域住民を招待する行事は行っていないが、地元企業に協力してもらってのイベント等を行い、地元住民との交流を図っている。	今後も工夫点を維持する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5件 (80%)	1件 (20%)	保護者には周知できていないが、マニュアルファイルは設置している。	今後は公式LINEを使って周知に努める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5件 (80%)	1件 (20%)	年2回の訓練を位置づけている。	訓練のバリエーションを今後増やしていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6件 (100%)		虐待防止等の情報をスタッフに周知し、研修参加を促している。	次年度はりたりこの研修システムを導入しより高度な研修ができるように体制を整備する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5件 (80%)	1件 (20%)	重要事項説明書に記載して保護者の同意を得ている。	利用者への説明が不足していたので今後は利用者への周知も行っていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6件 (100%)		アレルギーの種類や対応が必要なことに対して、保護者へ確認や相談をしている。フェイスシートへ確認した内容を入力している。	今後も工夫点を維持する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5件 (80%)	1件 (20%)	必要に応じて、ヒヤリハットを作成することで、事業所内で共有している。	今後も工夫点を維持する。